

## 加藤義夫略歴

1954年大阪府生まれ。

グラフィック・デザイナーやギャラリストを経て、97年加藤義夫芸術計画室設立。

展覧会の企画や評論活動を展開する。

これまで「フォンターナと空間主義」「イタリアの現在」「アルテ・ポーヴェラ」展のほか、川俣正、藤本由紀夫、中村一美らの個展を企画。「90年代の日本-13人のアーティストの提言」展を企画し、ローマとデュッセルドルフの市立美術館で開催。(93)

近年の主な展覧会企画と役職は、大阪・ハンブルク友好都市提携10周年記念事業実行委員「五感の芸術」ハンブルク(99)、「越後妻有アートトリエンナーレ2000」第一次審査委員(00)、「芸術と自然」美濃加茂市民ミュージアム(00)、「アジアの世紀のはじまりに」CASO(01/02/03)、「大久保英治展」メゾンエルメス・フォーラム(02)、「山口啓介展」西宮市大谷記念美術館(02)、第1回KIAF特別展「東方の光」(02)、大阪府文化スタッフ(03-05)、「大阪アートカレイドスコープ展」総合プロデュース(04/05)、JTC「テキスタイルの未来形」金沢21世紀美術館、札幌芸術の森美術館、福岡アジア美術館、網走市立美術館(05-12)、武蔵野美術大学「αMプロジェクト」(06-07)、「ARTOSAKA」実行委員(06-14)、「AHAFソウル・香港」実行委員(08-14)、あいちアートプログラム「アーツ・チャレンジ」(08-13)選考委員&キュレーター、群馬青年ビエンナーレ審査委員長(08/10)、水都大阪(09)アート・アドバイザー・コミッティ&審査委員、「岩国際現代美術展」(10)、「ヨッちゃんビエンナーレ」(11/13)、ARTOSAKA特別展「日本現代美術の巨匠たち」(12)「今を生きる具体美術の精神」(13)、AHAF香港 /AHAFソウル特別展(14)。

その他、国立国際美術館評価委員、大阪市立近代美術館建設準備室評価委員、兵庫県立美術館外部評価委員、神戸都市創造モデル事業評価委員、大阪府立江之子島文化芸術創造センター検討会委員、沖縄コンテンポラリーアートセンター・ボードメンバーを歴任する。

現在、加藤義夫芸術計画室主宰、国際美術評論家連盟会員 aica、朝日新聞大阪本社文化欄「美術評」担当。大阪教育大学・大阪芸術大学・大阪成蹊大学・京都精華大学・近畿大学・神戸大学・武蔵野美術大学などで非常勤講師。